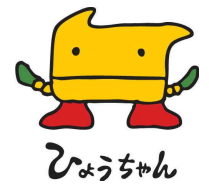


嬉 望

第 9 号
平成25年 9月20日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



大学マスコット

それぞれの学びを求めて

猛暑の8月が過ぎ、夏季休業も後半に入りました。理論と実践の統合をめざし、2年生は所定の学校および行政機関でインターンシップを実施中です。これまでの学びの総決算として受入先で実践的な研究を進め、その成果を改善プランとして結実させることとなります。前号で紹介した目標の達成を期して、日々実践が展開されていることだと思えます。各学校ならびに行政機関の関係者の皆様、よろしくお願いいたします。

1年生は、大学院での初めての夏季休業。現場では経験できなかったような「学び」を深めるよい機会となっています。研究会への参加やフィールドワーク等を通じて知見を広める姿が見られます。本号では、様々な「学び」の様子を概観し、参加者の所感等を中心に伝えします。

8月23日・24日 山口市学校経営研修会

8月23日・24日、山口市で行われた学校経営研修会に、1年生4名、2年生3名が参加しました。初日は中堅教員、二日目は管理職対象で実施されました。

初日は「学校組織マネジメント」「学校のビジョンづくり」「学校の特色づくり」「ミドルの戦略的突出プラン」を中心に、演習を実施しました。1年生にとっては、学校組織マネジメントの



復習を兼ね、山口市内の中堅教員との交流を深めつつ学びを深めました。「攻めの経営」を生み出すとき、自校の弱みを克服するだけでなく、強みを前面に打ち出すことで、特色ある学校づくりや学校の活性化につながる、との浅野先生のお話には、参加者一同感慨を深めました。

二日目は主として「学校評価」をテーマに演習が進められ、「学力向上」に関して評価項目を検討しました。その際に重要なのは、現状（問題点）と期待（到達したい目標）を分析すること、原因を直接除去する手だて・阻害要因を回避する手だて・促進要因を開発する手だての3方向からアプローチすること。現状



と期待のギャップに着目し具体的な手だてを導き出すのは、案外難しく感じられました。

二日間の研修を通じて、組織改善の手の打ちどころを再度振り返ることができました。さらに、管理職の方の高い識見に直に触れる大変よい機会ともなり、後期の学びに二日間の成果を具体的に活かしたいと考えています。

9月4日 西脇市教育振興基本計画 第2回検討委員会 傍聴

西脇市教育振興基本計画第2回検討委員会を1年生8名が傍聴しました。以下は参加者の所感です。

「教育振興基本計画については、様々な県や市町村の作成されたものはよく見るが、策定段階での協議について初めて見ることで、非常に貴重な体験となった。協議を進めていく中で、委員のそれぞれの思いが出てきていた。いずれも『西脇市の教育をよりよい方向へ』という思いは一緒である。ビジョンがもう少し明確になると、それに向けた取組がより具体化して、市民への可視化が明確になるのではないだろうか。ただし、すでに行われている施策をどのように関連づけるかが課題となる。事前に委員に資料が配付されて

いるようだが、事務局が単に配布するだけでなく、ある程度説明をしておく、会議がより有益なものになり、事務局担当者のプレゼン力アップにつながるものと考え（春日市の教育委員会が実施）。

このような会議（教育委員会議も含む）を西脇市の教職員（管理職やミドル層）も計画的に参観すると、教職員の意識改革や人材育成にもつながると思われた。」



9月7日 第8回 日本スクールビジネス 研究会 in 岡山

おかやま西川原プラザ（岡山市）において、「学校事務の研究の最前線についてスクールに議論する」と題し、日本スクールビジネス研究会が行われました。2年生1名、1年生5名が参加しました。

午前は「学校事務の今日的課題を考察し、学校事務研究の最前線を語る」をテーマに、国立教育政

策研究所 藤原文雄氏、兵庫教育大学 日渡 円教授、文部科学省 風岡 治氏、茨城大学 加藤崇英准教授、新潟大学 雲尾 周准教授の自由研究発表が行われました。管理職養成、教育長の資質、来年度文科省概算要求、学校業務改善マネジメント、上海教育の秘密など、今日的な話題がコンパクトにまとめられた興味深い発表がなされました。

午後は朝日新聞社 氏岡真弓編集委員、兵庫教育大学 日渡 円教授、岡山県立新設特別支援学校開設準備局 小田幸伸局長を討論者として、「学力向上・子どもの成長につながる学校運営」をテーマに、「本物の学力とは何か？」を追究する自由討論とシンポジウムが行われました。

学力学習状況調査の取材等に基づき学力論や調査の意義等について疑問を投げかけられた氏岡氏、地方分権化という大きな潮流を文脈として正しくとらえる必要性を訴えられた日渡教授、岡山県の学力向上施策推進上の苦労や課題について切々と話された小田局長。「学力向上は、指導論だけでは不十分。財務に長けた行政職つまり学校事務職員が学校運営に効果的に参画することこそが、必要なことである！」という帰結にたどり着き、参加者のほとんどを占める学校

事務職員の方々の今後に対する意気込みが感じられました。変革の潮流に確かなアンテナを立てることは、私たち院生にも重要なことなのだと思えて痛感しました。



9月10日

兵庫県立学校新任校長研修

学校管理職としてのマネジメント ～人材育成の観点から～をテーマに行われた兵庫県立学校新任校長研修に、1年生8名が参加しました。

1 教職員の人材育成の考え方 / 2 校内における人材育成の進め方 / 3 高等学校・特別支援学校における「3」の実践事例 / 4 動機づけの各種理論 / 5 学校の組織活性化と人材育成 という内容で実施されました。1年生前期の「学校組織マネジメント」

の学び直しのつもりで受講した参加者も多かったようです。

経験を通じて人は育つが、「経験の場」をうまく作り出すのが校長の仕事であり、経験した後振り返り「経験―内省―持論化」思い出でなくノウハウに「...これらは、授業の時よりも実感を伴って理解することができたとの感想が多く出されました。

さらに、教員の育成機会例として高等学校ではあまり効き目がないと考えられている「コーチング・機会指導・授業研究会・教材研究会・校内研修会・校外研修」などにも手をつけてみるのが今後の人材育成につながるのではないかというお話は、現任校で考えている取り組みにも重なり、今後の学校改革に生かしたい...との感想をもった参加者も見られ、研修の成果の大きさを感じられました。



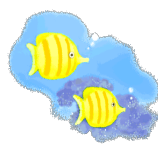
これら以外にも、8月13日 学力向上戦略本部会議傍聴、8月16日 県立学校第三者評価委員研修(いずれも鳥取県)、8月21日 養護教諭研修(西宮市)、8月26日 新任教頭・校長研修会(和歌山県)、8月29・30日 グループリーダー研修(知事部局向け 島根県)、9月12日 二年目教頭研修会(広島市)、9月17日 校長研修会(姫路市)、9月18日 学校見学及び学校力向上事業研修(京都市)、9月24日 二年目教頭研修(大阪市)、9月27日 新任校長研修(鳥取県)等に参加及び参加予定です。授業での学びの振り返りや理論と実践の往還を夏季休業中に積極的に行っていきます。

インターンシップ 地方紙でも報道!

8月27日付西日本新聞朝刊に、現在大分県九重町教育委員会にてインターンシップ実施中の2年生藤田さんの様子が掲載されました。教育行政の実務を経験するとともに、現地で直に学校や教職員のアドバイザーも務め、「この学園構想」の推進を支援していく予定となっています。

古後粒勝 九重町教育長は、「研究の一方で、大学院で得た知識や情報を学校現場に伝え、刺激を与えて活性化させてほしい」と藤田さんの役割に大きな期待を寄せておられます。なお、実習の終盤には、澄川さんも合流の予定です。

学園構想推進に本学院生が関わることの重責を院生一同でも共有しつつ、今後の動向をしっかりと見つけたいと思います。



2013年8月27日 西日本(朝刊) 町づくりと教育学びたい 町教委で研修、助言も 兵庫県立大学の藤田さん 町教委で研修、助言も 藤田さんは、兵庫県立大学の教育学部で、教育学を専攻する学生として、町教委で研修、助言も 藤田さんは、兵庫県立大学の教育学部で、教育学を専攻する学生として、町教委で研修、助言も...